



長房だより

平成29年12月8日
地域運営学校
八王子市立長房中学校
【第9号】

人権尊重について（12/4朝礼講話）

校長 金野 寛

今学期もあと3週間で終わろうとしています。

皆さんの学校での様子を振り返ってみると挨拶が出来て、授業規律も守られ学校生活をとてもまじめに一生懸命送っている姿が伺えます。そんな皆さんには、褒める言葉と感謝の気持ちしか浮かびませんが、生徒どうしでは全員が満足して過ごしているのかと言われると、少し心配なところもあります。全ての生徒が、楽しく満足して学校生活を送ることは難しいことだと思いますが、そうできることが大切な事です。

そこで、今日はそのために日々の生活の中で最も大切な人権尊重についてのお話をします。

人権が守られている学校は、「お互いが大切にされていると実感できる学校」です。誰もが「大切にされたい。大切にしたい。みんなと仲良く楽しい学校生活を送りたい」と思っていると思います。そんな学校にするために皆さん一人一人が、そして先生たち一人一人も、そのような学校にしようとして一層心を配り、気をきかせることは大切なことです。

我が国の憲法では、「国民は、すべての基本的人権の享有（生まれつき身にうけて持っていること）を妨げない。憲法が国民に保証する基本的人権は、侵すことのできない永久の権利」と謳っています。そして、12月4日から12月10日までは、人権週間であり、12月10日を国連では「人権デー」と定めています。本年度の「第69回人権週間」での啓発活動重点目標は「～みんなで築こう 人権の世紀～考えよう相手の気持ち 未来につなげよう違いを認め合う心～」です。

ぜひ、この機会に、あらためて人権の尊重について考えて欲しいと思います。

皆さんは、現実に社会や学校などで周りの人達と関わりを持ち、思いやりの心で、尊重し合っているでしょうか。近年、明らかに人権侵害と思えることがたくさんあります。特に、SNSによる誹謗、中傷などの書き込みは、まさに、人権侵害の代表のような内容が書き込まれています。人間として決して許されることではありません。このようなことが起きる背景には、人権に関する知識や理解の不足、相手のことを考えないで自己主張をしすぎるあまり、他の人の生きる権利を踏みにじっていることや他の人を傷つけていることに気づかないことがあると思います。

人権を尊重し大切にするには、相手の立場に自分を置き換えて考え、悩みや苦しみ・悲しみや願いを理解し、相手の気持ちに寄り添うことが大切です。みんなの力で、勇気を出して、いじめがなく、お互いに大切にされていると実感できる学校にしていきましょう。

【長房中生徒の活躍】（敬称略）

◎多摩特研マラソン大会

2年 宮崎知伸 15位入賞

◎八王子市中学校陸上競走大会

2年男子100m 第4位 山口学 2年男子400mR 第6位 今野シオン・山口学・山本真寛・加藤望稀

1,2年男子 走幅跳び 第5位 山口学 2年女子400mR 第7位 平林穂香・北村友花・渡部鈴音・遠藤瑠唯

◎第33回 八王子市中学校女子駅伝競走大会

総合 第3位 1区 2年 結城璃子 2区 2年 鈴木志磨

3区 2年 井上海月 4区 3年 宮部滯美（区間賞） 5区 2年 遠藤瑠唯

◎東京都中学校吹奏楽コンクール 銅賞受賞 NHK全国学校音楽コンクール 東京都コンクール奨励賞受賞

◎女子バスケットボール 第71地区中学校新人大会

準優勝（都大会出場 12/8 現在、都ベスト8進出）

◎八王子市民卓球大会 中学1年女子の部

長房中Aチーム 優勝

◎八王子市中学校科学コンクール

奨励賞・オリンパス賞 1年 藤原 逢日香 「アリの大研究 アリが好むものをとことん研究」

入選 1年 小池佑典：佐藤摩耶：渡邊彩香：佐藤桃奈 ポスター賞 2年 田中桃和：下村友愛

◎中学生「税の標語」表彰 八王子関税会主催

八王子市長賞 1年 石井美帆「支え合う 税へと託す みんなの未来」

◎市制100周年記念事業「小・中学生作文コンテスト」

八王子市長賞 2年 日暮 雅 僕らの未来計画～輝かそう八王子～

今年、百周年を迎えた八王子。二十年後の百二十周年を迎える頃にはどう変わっているか、未来の八王子に聞きたいことがいくつもある。「市長は誰か。」もしかしたら、ぼくのクラスメートかもしれない。「人口、面積は。」もしかしたら、中核市から、政令指定都市になる程大きな市になっているかもしれない。「世界的な有名人はいるだろうか。」もしかしたら、オリンピック金メダリストやノーベル賞受賞者がいるかもしれない。色々想像してみたが、僕は気が付いた。僕が聞きたいことは、変化するものばかりだ。だが、八王子には、二十年、三十年、いやもっと先の百年後にも変わらず受け継いで、その魅力が世界に広まって欲しい伝統や文化、歴史、自然などがたくさんあるということに。

八王子の歴史の一つに養蚕や織物産業の発展がある。昔は、桑都と呼ばれたほどだ。僕は、小学三年生の時、学校の授業で、蚕を育て、糸を紡ぐ体験をした。この体験が八王子の伝統や歴史に触れるきっかけになり、これらに親しむことに繋がった。もちろん写真を見たり、話を聞いたりするのも楽しかったが、実際に見たり、触れたりすることが大切だと感じた。また、僕は毎年八王子まつりやいちょう祭りに行っている。毎回新しい発見があって楽しい。そんな祭りの良さを市の外から訪れた人々に紹介したいと思う。

しかし、自分が体験していないことを人に伝えるのは難しい。例えば、見ていても踊れない新八王子音頭「太陽おどり」や、耳にしたことはあるが見たことのない八王子で伝統人形劇である「車人形」などだ。機会があれば、触れてみたいと思い調べてみると、八王子市主催の文化イベントがあることを知った。一步文化に近づくことができるので、父母や友人と是非参加してみたい。また、八王子市民が八王子のことを知らない、紹介できないことにも気が付いた。昨年、ギネス世界記録に認定された盆踊りのように伝統を生かした挑戦をして、多くの市民に関心をもってもらうと、市民が文化を知りたいと思うきっかけになると考えた。

では、八王子の良さや魅力、自分の体験をどのようにしたら、市外の人に伝えることができるだろうか。高尾山には、年間二百六十万人もの人々が訪れ、日本一登山客の多い山として知られている。ミシュラン三星にも選ばれており、世界的にも有名にも有名だ。この山に市外から訪れた人にまず八王子のパンフレットを渡す。その中で興味をもってくれた人に市民ボランティアが八王子を説明、紹介して、関心を引くと良いと思う。僕もボランティアに参加し、パンフレット作りなどをしたい。説明を受けた人が「行きたい。」と思ってくれば大成功だ。その日中に他の名所に行くことはできなくても、「八王子」の名を覚えてもらえれば、次の機会に足を運んでくれるに違いない。

三年後の東京オリンピックも絶好の機会だ。オリンピックの閉会式の日、八王子まつりの開催日と重なる。「せっかく日本に来たのだから祭りを見たい。」と思う来日外国人がたくさんいるのではないだろうか。そのような人が八王子まつりを見に来てくれるかもしれない。そのために、英語で市内を案内できるガイドを市民で構成すると良いと思う。是非それに参加して、八王子の良い所や魅力を色々伝えたい。

高尾山や八王子まつりに来てくれた人を通じて、二十年後には、「八王子」の名と、伝統や文化、歴史、自然など、昔から変わらず残る魅力が、僕たち市民の手で世界に広まり、八王子が輝いてほしい。(一部略)